



発行：風の松原に守られる人々の会 事務局：〒016-0805 秋田県能代市大手町3-38 成田憲太郎方 電話0185-52-6316

会設立からの歩み

今号には平成22年7月下旬から23年3月までの活動を記録。見出し番号は創刊号からの通し番号です。

148 2010. あきた水と緑の森林祭

平成20年6月15日に北欧の杜公園で開催された全国植樹祭を記念して、「2010. あきた水と緑の森林祭」が、平成22年7月31日に北秋田市・北欧の杜公園で開催された。

本会は、県の森づくり税活用団体として「近代風の松原のできるまで」のパネル12枚を展示して参加した。



149 県有林低木除去作業

本会発足当初から行われている県有林の作業は、9月9日(金) 9:30～11:30までの予定で、港湾道路からロケットセンターに向かう道路の入口近くで行われた。今年の参加者はカメラマン役



も含めて13名。作業終了後に参加者全員で記念撮影したのは今回が初めてだった。

150 市長とランチ

平成22年9月28日(火)正午から市長応接室で、平成18年10月以来2度目となる『市民の皆さんとランチで対話』を行っ



た。質問・要望した事項は、①能代公園脇の越後屋太郎右衛門が植えたと言われる松群の保全について。②風の松原に対する市の未来像は？ ③能代市風の松原保護検討協議会の後続について。

151 虹の松原の会員と交流会

10月7日(木) 佐賀県虹の松原のボランティア活動をしている人2名が風の松原を訪れた。当日はニセアカシ



ア除去作業日だったので、作業終了後本会5名と松風庵で交流会を開いて虹の松原での活動の様子を伺った。

152 秋の風の松原視察会

秋の松原視察会が10月23日(土)午前9時30分～11時



30分まで行われた。参加者は16名。今回は例年と違って、松原の現状を知ることが目的に行われた。

最初の写真は、平成21年3月3日に薬剤を樹幹注入した松を観察している様子。

2枚目は、ウッドチップ歩道をNo. 3地点からNo. 11地点に向かって周囲のクロマツを観察しながら





歩いている様子。

3枚目は、平成21年4月に松苗150本を植樹し、22年3月に100本ほど補植した場所を観察しているが、雑草ばかりが目立っている様子。



4枚目は、ポートを係留している泊地内側の小径（作業用道路）が、ニセアカシアの繁茂により歩けなくなっていた。



最後の写真は、ジョギングコース37番地点付近。松枯れとなって黄色のテープを巻かれた木が2本並んでいた。

153 能代第一中学校「風の松原総合学習」

平成22年11月2日（火）能代一中1年生の「風の松原総合学習」に本会副会長の安井昭彦さんと浅野ミヤさんが参加、風の松原の成り立ちや、安井さんや浅野さんが一中の生徒だった頃の松原の様子、さらに松原の現状について説明した。



154 組パネル展示

秋田県水と緑の森づくり税の助成を受けて作成した「近代風の松原のできるまで」組パネル展が、前号で紹介した7月の能代南中以降も能代第二中（9月10日～17日）、第五小（9月17日～29日）、能代東中（9月29日～10月8日）、湊城西小（8日～14日）、湊城南小（14日～22日）、能代第一中（22日～11月2日）、第四小（2日～9日）、崇徳小（9日～15日）、鶴形小（15日～19日）、常盤小と常盤中（19日～25日）、朴瀬小（25日～30日）。今年度の組パネル展示は旧能代市内の全小中学校で開催された。

第五小ではスライド上映会も開かれ四～六年生103

名が参加した。大正10年に始まった国有林造林事業に第五小児童の曾祖父が携わっていたことや、旧東中グラウンドにあった松苗畑では多くの地域住民が働いていたことなども紹介された。

155 会員研修会

会員研修会が11月30日（火）にサン・ウッド能代で開かれ、30名が参加した。今回は米代西部森林管理署長栗林晃氏の講演。題は「風の松原の現状と課題」。大開浜で砂に埋まった防風柵の様子など、普段はあまり目にしない風景もスライドで目にすることができた。



156 来年度事業について検討中

11月から2月にかけて数回正副会長事務局会議を開き、来年度からの事業である県有林内の林床改良事業（白砂青松事業関連）や国有林内のふれあいの森事業（クロマツ植樹関連）について検討した。

白砂青松事業の場合は秋田県と本会と浅内財産区の管理者である能代市長との協定書の締結が必要であり、クロマツ植樹事業の場合には米代西部森林管理署と本会と能代市長との協定書を締結する必要がある。どちらも実施する場合には総会で提案する。

157 松くい虫予防材樹幹注入作業実施

平成23年3月1日、9時30分から樹幹注入作業が行われた。今年の実施場所は前号の146番の記事で紹介した越後屋太郎右衛門の松を中心とする4本。参加者25名。使用した薬剤「グリーンガード・エイト」56本の費用は「秋田県水と緑の森づくり税」の補助金で実施した。

なお、薬剤の改良により今回使用した薬剤の薬効持続期間は5年となった。樹幹注入作業が国有林以外で実



施されたのは今回が初めてである。

158 ニセアカシア除去作業

10月7日（木）に第4回「ニセアカシア除去作業」が行われ13名が参加した。初めての試みとして3月にも除去作業が計画されたが、17日（木）予定された第5回「ニセアカシア除去作業」は当日朝の積雪のため中止された。